

『アマチュアリズム』

本誌の内容が、難しい、専門的すぎる、文字ばかりで読むのに疲れる、といった感想をいただくことが多い。医学・薬学を対象領域とする雑誌であるから、同領域についてのある程度の基礎知識を読者に求めることになる。そのうえ、見慣れない統計学の用語や数字があり、さらに最近の薬剤の名称は長くてややこしいものが多いことなどが記事を読む意欲を削いでいる原因の一つだろう。

本誌の前身「薬のチェックは命のチェック」の創刊号（2001年1月発刊）の創刊のことばには、「この本では、病気についての話と、それに使う薬が良いか悪いかを分かりやすく解説します。そのように本当に患者の身になって必要な情報をお届けします」と述べている。また、衣替えした本誌「薬のチェック」57号（2015年1月発刊）のEditorialには、「一般の方、マスメディアの方にも読んでいただけるように、分かりやすい表現を心掛けるようにしたい」と記している。

ただ、まだまだ努力が足りないことは自覚している。初心を忘れずに、難しい内容をわかりやすく表現することに全力を尽くしたい。

とはいえ、今号のワクチンに関する記事（127頁）には、またまた見慣れないカタカナが並ぶ。サブユニット、スパイク、脂質ナノ粒子、ベクター、アジュバント、等々、頭が痛くなる、と読者の悲鳴が聞こえそう。しかし、どうか、時間をかけて熟読してください。一読では理解できなくても、時折、読み返していただければ、大事な点は理解できると思う。

パレスチナ系アメリカ人の文学批評家エドワード・W・サイード（1935－2003）の「知識人とは何か」（平凡社ライブラリー）の訳者あとがきに、“筆者（サイード）が望ましい知識人とするのはどういう存在か。それは、専門的知識で重装備したエキスパートではなく、アマチュアである。ひとつの分野に呪縛されて、ひたすら何かに奉仕する専門家ではなく、各分野を自在に横断できるアマチュア”とある。サイードは専門能力の養成が無駄だと言っているわけではない。“現在の教育制度では、教育レベルが高くなればなるほど、そのぶん教育を受けるものは、狭い知の領域に閉じ込められる”と述べている。サイードは専門バカを戒めている。

本誌は、この“各分野を自在に横断できる”アマチュアリズムの精神を大事にして、分かりやすい記事を書いていきたい。